



浸出水（処理前の水）から放射能検出！長野県ホームページ記載

9月2日の県の調査により、浸出水から2.1ベクレル/lの放射能が検出されました。法律では150ベクレルまで認められており、フジコーポは安全処理をしたのちに排水しているものの、放射能検出の事態で私たちの孫子の代まで管理しなければならないことが明らかになったわけです。行政への一層の指導監督を要望すると共に、みなさまのご意見・ご協力をお願いいたします。

激増する埋め立て量

2011年4～6月 2300～3000トン

→今年3月 7300トン →7月 19400トン →8月 18600トン

10トンダンプにして一か月 1860台。大変な量の焼却灰が、すごい勢いで埋め立てられています。



カドミウム検出で埋め立て中止となった処分場の掘り出し灰受け

入れ

神奈川県湯河原真鶴衛生組合で処分場の地下水からカドミウムが検出され、埋め立てを中止していた最終処分場から、焼却灰や不燃物残渣を受け入れ始めました。総量約73000トン。

湯河原真鶴衛生組合では原因は処分場のゴムシートの破損によるものと分析、全量撤去して、改

放射能焼却灰処分場裁判の経過説明と支援のお願い

経過説明

2011年3月の福島第一原発事故の結果として、2011年7月、小諸市にある一般ゴミ産業廃棄物最終処分場フジコーポレーションに放射性廃棄物を含む焼却灰の搬入が始まりました。

私たち地域住民には、私たちがそして未来の子どもたちが安心して暮らせる環境を自ら考え守ってゆく責任があります。この共通認識に立ち、“放射能を考える佐久地区連絡会”が発足し、今日まで様々な勉強会、行政への陳情等を行ってきました。

その中で①2012年7月、処分場内に運び込まれた焼却灰にセメントを混ぜ埋め立てる際の映像（場内ライブカメラによる）に灰の舞い上がりらしき場面を確認したため、周辺への汚染物質（放射能の有無にかかわらず）拡散の可能性があるかと判断し、ブログ等に記載しました。②2013年4月フジコーポとほぼ同じ構造である隣接する廃棄物処分場イースタージの県による水質検査値を基に強く漏えいを疑い、地域住民の安全のため公表が必要と判断しブログ等に掲載しました。

そして本年5月、主に上記2点の公表に対して、関係する2つの処分場から「汚染物質の漏えい・ばいじんの舞い上がりの事実はない」として名誉毀損による損害賠償訴訟を起こされたのです。

支援のお願い

最近の福島第一原発の汚染水問題でも明らかな企業・政府の無責任、被害者の人権軽視体質は、どこから生まれるのでしょうか？企業・政府のみに責任を押し付けることはできません。私たち自身が、地震列島に原発を作らせてきてしまったのです。私たちひとりひとりが未来の人々に対する責任を負っている自覚を持ち、自由に話し合い、連帯し、行動することによってしか、人としての尊厳が生かされる世界を目指すことはできないでしょう。この裁判の結果次第では、そのような運動全体に大きな打撃となってしまうかねません。どうか大きな支援をお願い致します。

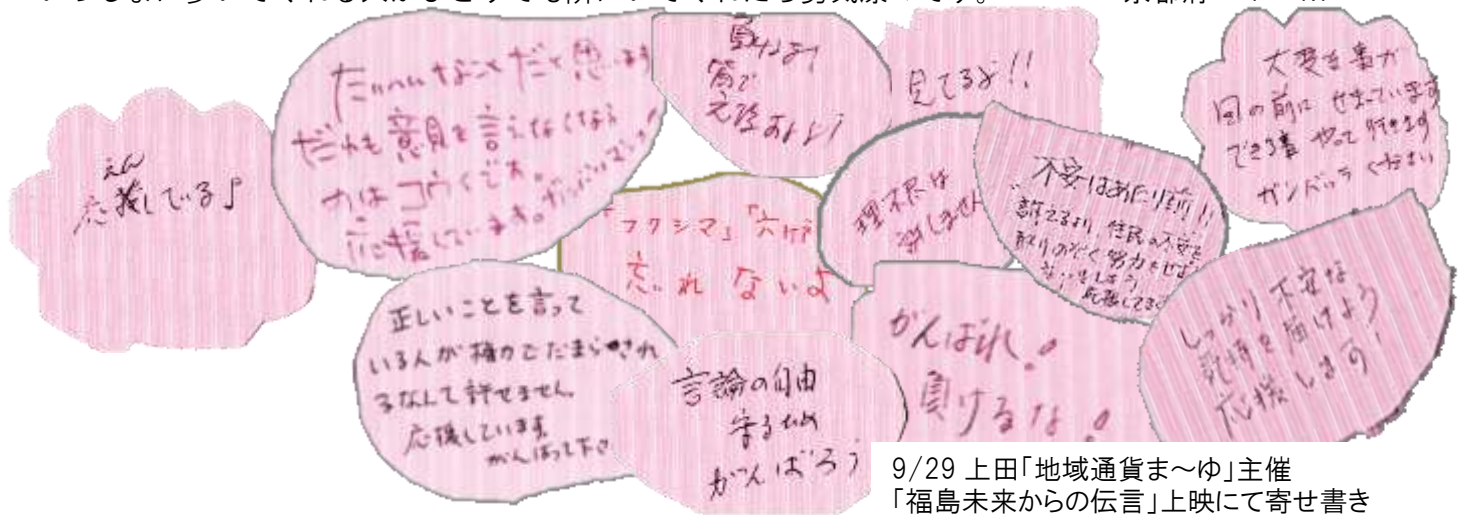
応援 メッセージ

私たちは、青森県六ヶ所村の再処理施設や山口県の祝島で着工されかけた原発の新規建設計画について、ドキュメンタリー映画の上映会を通して現地の人々の思いを伝える活動をしてきました。そして今は福島の実を伝えたいと思っています。国や大企業という大きな力の下に、また私たちの日常の暮らしの下で、一部の地域の人々が犠牲になっているという状況は原発に限らず様々に存在しています。マスコミに取り上げてももらえないがために一般に気づきづらく、また受け入れがたい現実ではありますが、私たち一人一人が気づいて声を上げていかないと家族や地域、子ども達の未来は守れない…そう感じています。

フジ・コーポレーションとEステージに一般市民が訴えられました。放射性廃棄物の埋め立てに対して不安な気持ちを表現したために。この訴えが成立したらこの地域一帯で何か疑問に思っても誰も声を上げられなくなります。私は、おかしいことはおかしいと言いたい。これをきっかけに、みんなで声をかけ合って、横の繋がりを強めて大きな力にしていきたいです。 六ヶ所会議あさまK・A

わたしは、「わたしたちは、氷砂糖をほしくらゐもたないでも、きれいにすきとほった風を 食べ、桃色のうつくしい朝の日光をのむことができます」と詩人が吟った世界を子どもたちに手渡したいと思います。また、わたしの大切な人たちと、今いるここで、安心して自由におしゃべりして暮らしていきたいのです。そのために、「放射能を考える会」のみなさんと歩いていきます。いっしょに歩いてくれる人がひとりでも隣にいてくれたら勇気凛々です。 京都府 Y・M

ありがとう
ございました



9/29 上田「地域通貨ま〜ゆ」主催
「福島未来からの伝言」上映にて寄せ書き

カンパいただいたみなさま、本当にありがとうございます。引き続きご支援よろしく願いいたします！

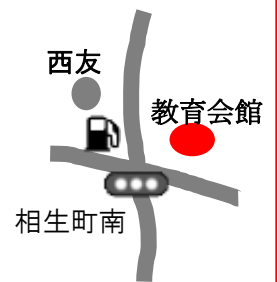
第3回放射能講座
「物理学の観点から見た放射線と健康被害」

テーマ「海の放射能汚染」

講師：大井万紀人先生（専修大学准教授）

日時：11月10日（日）午後1時～3時

場所：佐久教育会館



《カンパ振込先》

郵便口座番号
00580-7-85355

名称
放射能を考える会



——編集後記——

先日、鎌仲ひとみ監督の「内部被ばくを生き抜く」にも紹介されていた福島県二本松の住職佐々木直範さんの講演記録を読みました。チェルノブイリを視察し、国が子どもたちを守る法律をつくり、27年たっても汚染されている地域の子供たちは、一定期間保養させていること。

今、福島は100万人に一人と言われていた甲状腺ガンに44人がかかっています。日本政府は、人間を見捨てたんだなあと思っていると書いてありました。しかし、佐々木さんは、だからこそ人と人が出会っていける場をつくり、大切にしたいと最後に語っています。私たちもこの裁判に力を合わせることで、多くの人たちとの出逢いを生み出せば嬉しいですね、どうかみなさん、応援メッセージ、今取り組んでいること、知らせたいことを編集室までお寄せください。(F.Y)